

フォック LC#185 施工要領詳細データ① (夏期 25℃) 第4版-1

平成24年7月20日
株式会社シリカ・ジャパン

①フォック LC#185 乾燥時間及びTS-FX重ね塗り試験 (主剤カラー 70% 硬化剤 30% シンナー 10%希釈 塗布量 0.25kg/m²)

試験実施期日 平成 20 年 7 月 10 日 12:00~平成 20 年 7 月 14 日 12:00

時間経過		1時間30分後	2時間後	2時間30分後	3時間後	4時間後	5時間30分後
硬化促進剤	0% 添加			指触乾燥 15%	半硬化 30% タック有	半硬化 40% タック有	半硬化 50% 若干タック有
TS-FX 重ね塗り 0.12kg/m ² 程度			NG 微細リ フティング	OK	OK	OK	OK
TS-FX 厚重ね塗り 0.2kg/m ² 程度						NG エッジ部 リフティング	OK
硬化促進剤	0.5% 添加	指触乾燥 15%	半硬化 25% タック有	半硬化 30% タック有	半硬化 50% 若干タック有	半硬化 60% 若干タック有	半硬化 70% 若干タック有
TS-FX 重ね塗り 0.12kg/m ² 程度			NG 一部ブ リージング	NG 一部ブ リージング	OK	OK	OK
TS-FX 厚重ね塗り 0.2kg/m ² 程度						NG エッジ部 リフティング	OK
硬化促進剤	1.0% 添加	指触乾燥 20%	半硬化 30% タック有	半硬化 50% 若干タック有	半硬化 60% 若干タック有	半硬化 65% 若干タック有	硬化 80% タック無
TS-FX 重ね塗り 0.12kg/m ² 程度			OK	OK	OK	OK	OK
TS-FX 極厚重ね塗 0.4kg/m ² 程度						NG リフティング	OK

※注意 上記データは目安です。素地及び環境の違いにより差異が生じます。

一般に無風・密閉・高湿度の環境下では硬化時間が延びる傾向にあります。余裕のある施工計画を立ててください。

又、主剤・硬化剤の攪拌不足の場合、配合比率の間違い及び、基準の 0.3kg/m²を超えて一度に厚付けした場合も硬化時間が延びる傾向にあります。※この場合、物性強度も落ち、硬度不足や発泡の発生も懸念されますので特にご注意願います。

②配合比変更による硬化時間 (タック) の変化 (シンナー 20%希釈)

試験実施期日 平成 20 年 8 月 5 日 18 : 00~平成 20 年 8 月 7 日 18 : 00 30℃→25℃→35℃

配合 / 時間	12時間後	24時間後	48時間後
主剤 70 : 硬化剤 30 促進剤 0	若干タック有~タック無	タック無	(標準硬度)
主剤 80 : 硬化剤 20 促進剤 0	タック有	若干タック有	タック無 (硬度柔らか目)
主剤 60 : 硬化剤 40 促進剤 0	タック有	若干タック有~タック無	タック無 (硬度硬目)

※注意 標準配合と比較し、配合比が大きく変化した場合、タックが残る傾向があります。標準配合を守り混合攪拌願います。

フォック LC#185 施工要領詳細データ② (夏季 25℃) (冬季 10℃) 第4版-2

平成24年7月20日
株式会社シリカ・ジャパン

③フォック LC#185 の使用可能時間 (混合後のポットライフ) 25℃環境 シンナー 20%希釈
パイロキープ TS-2000 の使用可能時間 (混合後のポットライフ) 25℃環境 無希釈

時間経過		130分	150分	160分	180分		
硬化促進剤	0%添加	OK	若干増粘	増粘 NG	ゲル NG		
時間経過		20分	25分	30分	35分	40分	45分
硬化促進剤	0.5%添加	OK	OK	OK	若干増粘	増粘 NG	ゲル NG
硬化促進剤	1.0%添加	OK	増粘 NG	ゲル NG			

④フォック LC#185 の使用可能時間 (混合後のポットライフ) 10℃環境 シンナー 10%希釈
パイロキープ TS-2000 の使用可能時間 (混合後のポットライフ) 10℃環境 無希釈

時間経過		130分	150分	160分	180分	200分	
硬化促進剤	0%添加	OK	OK	若干増粘	増粘 NG	ゲル NG	
時間経過		30分	40分	50分	60分	70分	
硬化促進剤	1.0%添加	OK	OK	OK	増粘 NG	ゲル NG	
硬化促進剤	2.0%添加	OK	増粘 NG	ゲル NG			

※注意 上記データは目安です。環境の違いにより差異が生じます。いずれの場合も、容器に多量の混合塗料を入れた状態では

反応が大きくなりポットライフが早まります。又、直射日光等により高液温の場合もポットライフは早まります。

※上記の通り促進剤添加の際、夏季は使用可能時間が極端に短くなります。使用可能時間と塗料のしまりを考慮した場合、

促進剤の添加量は0.2~0.3%程度の微量調整が最適な場合があります。(夏季)

⑤塗り重ねインターバル変化による層間密着力 (25°C)

試験実施期日 平成20年7月10日 12:00~平成20年7月14日 12:00

時間経過			5時間30分	24時間	4日後	
フォック-フォック	硬化促進剤	0%添加	OK	OK	OK	
フォック-フォック	硬化促進剤	1%添加	OK	OK	OK	
フォック-TS-FX	硬化促進剤	0%添加	OK	OK	OK	
フォック-TS-FX	硬化促進剤	1%添加	OK	OK	OK	

※注意 上記データでは5時間30分後→4日後間全てでOKとなりましたが、

フォック-フォック (添加剤0%) では6時間~48時間

フォック-フォック (添加剤0.5~1.0%) では4時間~24時間

フォック-TS-FX (添加剤0%) では12時間~48時間

フォック-TS-FX (添加剤0.5~1.0%) では8時間~24時間のインターバルが理想的です。

※促進剤添加の際も上記左の時間では、若干のタックが残る場合があります。よって床面での重ね塗りは翌日を基本として下さい。

※長期インターバルで硬化が進み過ぎた場合は、エポキシほど顕著ではありませんが徐々に層間密着力は低下する傾向にあります。

この場合、表面を軽く目粗しする事で層間密着力の低下は解消出来ます。